

事業者の自主的取組の効果の検証方法について

	検証方法	実施主体	意見 提出委員
1	月単位の降下ばいじんの監視を継続し、必要な解析を行う。	市	堀本委員
2	特に南風時の対策の効果を把握する。	〃	松葉委員
3	目視による粉じんの発生状況の監視を強化する。	市及び 事業者	松葉委員
4	詳細な解析のため、工場内外における必要な調査を実施する。また、市及び事業者間で調査結果や過去の取組状況等の情報共有を行う。 (調査の例) ・統一された測定条件の下での降下ばいじん測定 ・代表的な飛散源の粉じん組成分析	〃	河井委員 堀本委員 松葉委員 三澤委員

(その他、事業者が行う粉じん対策に関する助言)

○降下ばいじんの不溶解分が改善しているとの事業者の説明について、コークス生産量そのものの減少等、5 コークス炉停止以外の要因は考えられないか。(河井委員)

○各種対策に関する粉じん飛散の低減度合い等について、対応可能な範囲で情報提供されたい。(堀本委員)

○測定の信頼性が向上するよう、情報公開等に努めていただきたい。(河井委員)

○工場全体を通じて、影響の大きい飛散源を事業者自らが把握し、そのことに基づき対策を行うことが望ましい。(堀本委員)

○これまでの主な対策と効果について (松葉委員)

- ・ 主な対策と効果の把握
- ・ 当該把握方法の検証 (南風時における不溶性成分等)

○今後の降下ばいじん対策について (松葉委員)

- ・ 現在の工場全体の降下ばいじん発生量や種類の推定
- ・ 発生箇所のランク付けの検討
- ・ 対策の内容と効果の検討
- ・ 対策実施計画の策定